

ウェブアクセシビリティに関して正しいと思うものに、間違っていると思うものにxをつけましょう 回答は92ページから

Q1	画像のaltには必ずその画像の説明を書く	<input type="checkbox"/>	Q6	JavaScriptはうまく使えないことがある	<input type="checkbox"/>
Q2	テーブルをレイアウト目的に使用してはいけない	<input type="checkbox"/>	Q7	フォームは基本機能なので特に配慮するべきことはない	<input type="checkbox"/>
Q3	文字の大きさは相対指定にする	<input type="checkbox"/>	Q8	Flashは使ってはいけない	<input type="checkbox"/>
Q4	スタイルシートで指定すれば色もフォントも自由に使える	<input type="checkbox"/>	Q9	PDFは視覚障害者には使えない	<input type="checkbox"/>
Q5	アクセシビリティに配慮しても見た目のデザインは犠牲にならない	<input type="checkbox"/>	Q10	ブログはアクセシビリティ的には有利である	<input type="checkbox"/>

クイズ!

これを知らなきゃJIS対応できない!?

ウェブ みんなに8341? アクセシビリティ

ウェブサイトを高齢者や障害者でも使いやすくするための指針を示した規格としてJIS X8341-3「高齢者・障害者等配慮設計指針 - 情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス - 第3部：ウェブコンテンツ」が発行されて、ウェブアクセシビリティの話題がにわかには表舞台に登場してきた感がある。6月にマクロメディアが開催したアクセシビリティセミナーは、なんと700人以上の申し込みが殺到した。ウェブデザイン系の各誌にも、アクセシビリティ関連の記事が登場する機会が増え、JISを解説する記事も少なくない。しかし一方で、クリエイターからは背景や概念の説明ばかりで肝心のテクニックがわからない、実際に設計するときに大事なポイントが知りたいといった指摘もある。そこで、本稿では、ウェブアクセシビリティに取り組むときに最初にぶつかる10の質問に答えることで、基本中の基本となる考え方とテクニック、注意点をまとめて解説してみたいと思う。本稿を読み終えたあとで、JIS規格を買って読むことをおすすめしたい。



6月20日に発行されたJIS X8341-3:2004は、日本規格協会 JIS で購入できる。定価3,045円。PDF形式のオンライン版も購入できる。
<http://www.jisa.or.jp/>

梅垣まさひろ <ume@st.rim.or.jp>

JIS X8341-3の策定WG副主査を務めた。ライター、アクセシビリティコンサルタントとして活動中。最近の興味はメタデータ、ウェブの構造化、ブログなど。本稿の内容はJIS策定WGの正式見解ではなく、筆者の個人的なものである。



ウェブアクセシビリティ基本の「き」

JIS がめざすウェブアクセシビリティとは

ウェブアクセシビリティとは何か JISで考える利用者像

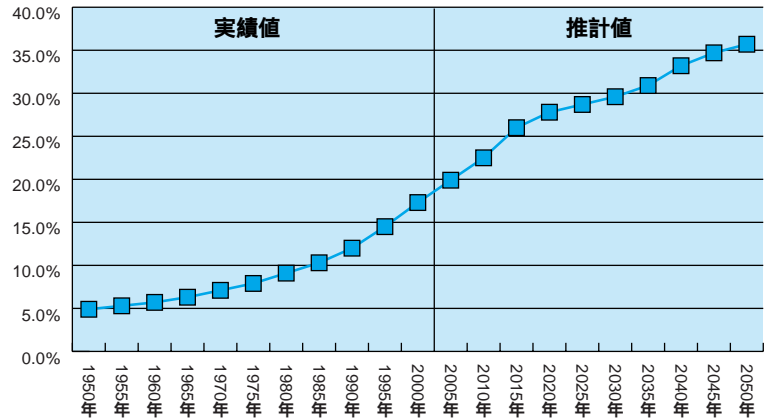
ウェブアクセシビリティという言葉を知ったことがない人は少ないだろう。しかし、その対象となっているユーザーのことを知っている人は意外に少ない。対象ユーザーのことを知らなければ、どう対応していいかわからないのは当たり前だ。そこでまず、JISの中からそのユーザー像を明らかにするところから始めてみよう。JIS X8341には「高齢者・障害者等配慮設計指針」というメインタイトルが与えられているが、これはこの規格がいわゆる「障害者」だけをターゲットにしているわけではないことを表している。たとえば、第5章「開発・制作に関する個別要件」の5.6「文字」では、文字のサイズを変更できるようにし、また見やすい色やフォントを用いることを求めている。これは、弱視の人だけでなく、加齢による視力の低下を考慮した記述になっている。

全体を通して一貫しているのは、ユーザーの特定の感覚器官(視覚や聴覚など)や身体(手の器用さなど)の機能の制限をどうすればカバーできるかという点であり、障害者への対応と言うよりは、障害者に限らず主として身体的な制限からウェブを使いづらいと感じているユーザーにどう対処すべきかという視点だ。したがって、この規格の直接の対象者である高齢者や障害者だけでなく、多様な環境でウェブを利用する一般の人たちのユーザビリティを改善するうえでも役に立つテクニックが含まれているのだ。

基本を押さえれば難しくない アクセシビリティ対応

まず、視覚特性に着目してみよう。ブラウザではなく、HTMLを読み上げる「スクリーンリーダー」を使って画面を音だけ

高齢化率(全人口に対する65歳以上の人口割合)



平成16年版 高齢社会白書(国)より、65歳以上の人口割合。2005年以降は推計値だが、2005年ですでに日本人の5人に1人は65歳以上だ。高齢者の25パーセントが日常生活に影響を及ぼす健康上の問題を抱えており、高齢者にも使いやすいウェブサイトがあれば、高齢者をターゲットにした市場が形成されることは間違いない。

国 http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html

で利用するユーザーは、文字または音声で記述された情報以外は利用できない。

そこで、画像は代替情報で補完することが求められる。代表的な方法はimg要素にalt属性をつけて文字情報を記載する方法だ。画像以外でも、Flashなどを使うときにはうまく使えるように工夫する必要がある。また、table要素はスクリーンリーダーでは扱いにくいものの1つだ。tableを使う場合には、構造を明確にしたりわかりやすくしたりといった配慮が求められる。

視力の弱い人や色の識別が困難なユーザーには、デザインにおいて的確な色使いや十分なコントラストの確保が必要だ。

聴覚に関しては、ウェブサイトを使う動画や音声に対する配慮事項がある。一般的に言えば、音で伝える情報には、テキストなどの代替情報が必要になる。

器用に機器を操作できない、操作の苦手なユーザーには、マウスよりも操作が容易なキーボードで操作できるように工夫したうえで、クリックする画像やアンカーな

どを操作しやすくするなどが必要になるだろう。フォームの使いやすさは、高齢者や視覚障害者だけでなく、一般のユーザーにとってもとって大事な要素となる。

アクセシビリティ向上は 一般のユーザビリティに通じる

一般的に高齢者などに対応するためには、サイトのユーザビリティ向上の手法が有効だ。使いやすいナビゲーションを提供したり、アイコンや画像、Flashなどをうまく使ったりすることで、わかりやすさや使い勝手を向上できるはずだ。


大まかな基本方針を説明した。アクセシビリティの向上は、高齢者や障害のある人に役立つものだが、その技術はそれ以外の人の使い勝手を向上し、多様な環境でのウェブアクセスを可能にするにも役立つものが多い。アクセシビリティの向上とともに、サイトの使いやすさやわかりやすさ、つまりユーザビリティを総点検してみることをおすすめしたい。

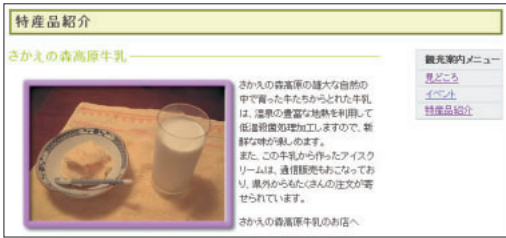


? x ? ウェブアクセシビリティの正しい考え方

クイズの答えで学ぶ JIS 対応ウェブサイトの作り方

Q1 画像の alt には必ずその画像の説明を書く?

正解は  alt は画像の役割を文脈で考えて書く



GOOD	<code></code>
BAD	<code></code>
BAD	<code></code>

左に示した例の画像ならば、GOODのように alt を付けるのが適切だ。alt がないとスクリーンリーダーは画像ファイル名を読み上げてしまう。この写真ならば、画像に解説文が添えられているので、alt は簡単な説明でよい。

解説 画像の alt は最も大事なものの一つだ。alt を正しくつけるだけで、アクセシビリティは画期的に向上する。alt 属性は、画像の説明を書くところではなく、画像が表示できない環境で代わりに表示するテキストを記述するためのものだ。したがって、コンテンツの「文脈」に沿って、画像の役割を明確に記述する必要がある。画像には機能面でいろいろな種類があり、その役割を分類して考えれば、alt の記述は難しくない(下表を参照)。ただし、例外もある。たとえば、会社のロゴマークと会社名の文字が並んでいる場合だ。

`
 />インプレスグループ`
 この場合、「インプレスグループ」という

テキストをスクリーンリーダーが2度読み上げてしまって煩わしいので、ロゴマークを alt="" にする。このように、実際に画像が使われるシチュエーションで使い勝手を想像しながら、適切なテキストを alt に記述していくことが必要だ。なお、alt="" の場合も alt 属性自体を省略してはいけない。

ワンポイント alt の記述で特に気をつけたいのが、リンク画像だ。リンクはページを閲覧するうえで重要な役割を果たしているため、alt を読んだだけでリンク先の内容がわかるようにしておく必要がある。

チェック方法 ブラウザーで画像表示をオフにしてページが利用できるかどうかを

確かめてみる方法が簡単だ。Accessibility Toolbar [URL](http://jun.mods.jp/atb.html) などの専用ツールを使うのが簡単だが、IE の場合、インターネットプロパティで「詳細設定」を開くと画像の表示をオン / オフできるのでそれで確認できる。

[URL](http://jun.mods.jp/atb.html) <http://jun.mods.jp/atb.html>

プラズメリット 画像の alt は、アクセシビリティだけでなく、外出先のダイアログアップ環境で画像を非表示にして快速アクセスを実現したい人にも役に立つ。また、画像の alt はテキストなので SEO (検索エンジン最適化) 効果も期待できる。

関連する JIS 項目 5.4.a, 5.4.b


画像の役割から見た alt 属性の記述方針

種類	機能	方針
スペーサー画像	レイアウト調整のための透過画像	本来スペーサー画像は使わないほうがいいが、画像自体には意味がないので alt="" とする
ビュレット画像	リストの先頭につける画像	飾りに過ぎないので、alt="" でよい
文字の画像化	ロゴマークなど文字を画像化したもの	文字を画像化した場合は、記述されているテキストを alt にも記述する
雰囲気画像	この画像がなくてもページとしての内容は伝わるが、全体の雰囲気を演出するための飾り	alt="" でもよいが、あえて伝えたい内容があるときは、その雰囲気を伝えるテキストを書く。画像の内容を伝えるのではないことに注意
グラフや図など	画像自体が情報を伝えているもの	グラフの内容などをテキストできちんと記述する。長くなりすぎるときは、alt は簡素にして longdesc 属性で詳細を記述したページへのリンクを提供するのをもよい
コンテンツ画像	画像自体がコンテンツの重要な要素になっているもの	画像自体を紹介することが目的の場合などがあてはまる。この場合は、できるだけ画像の内容を説明する。longdesc 属性の併用は必須といえるだろう
リンク画像、メニュー画像	リンクを張ってある画像	リンク先のページやコンテンツの内容がわかるような alt テキストを記述



画像の代わりに alt を表示してみると、そのページを画像なしで利用した場合にどう見えるかがよくわかる。

Q2 テーブルをレイアウト目的に使用してはいけない?

正解は  テーブルをレイアウトに使うのは望ましくないが、禁止ではない

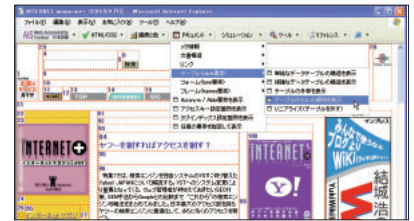


画像の数字はスクリーンリーダーが読み上げる順序。同じようなレイアウトだが、GOODの例はスタイルシートを使ってレイアウトしており、意図した順序で読み上げられるが、table要素を使ってレイアウトしたBADでは、「トピック」の読み上げ順が5番目になる。

解説 JISでは、テーブルレイアウトを使わないことが望ましいと明記されている。この基準に従うなら、テーブルではなくスタイルシートを使うべきだ。どうしてもテーブルでレイアウトしたい場合には、スクリーンリーダーの読み上げ順序に配慮する。一般的に、スクリーンリーダーはテーブルを横方向を基本に読み上げるため、テーブルでレイアウトすると意図した順序とは異なる順番で読み上げられることがある。上の例では、セルごとにコンテンツが完結しているが、もっと細かくセルを切り分けていると、まったく理解できない順序で読み上げられてしまうこともある。

ワンポイント tableをレイアウト目的で使う場合には、thやcaptionなどの表の論理的構造を示す要素を使ってはいけない。レイアウトには表としての論理的構造は存在しないからだ。逆に、本来の表組みではthやcaptionなどで構造を明示することが求められる。

チェック方法 Accessibility Toolbarの「リニアライズ」機能でテーブルを外して表示したり、「テーブルのセルの順序を表示」を使って読み上げ順を確認したりする。インターネットマガジンのトップページでは、本文が96番目であることがわかる。




果たしてたどりつくだろうか.....。

プラスメリット スタイルシートを使えば、ブラウザの画面サイズに応じてまわり込み処理などが行われてスマートだ。

関連するJIS項目 5.2.b、5.2.c、5.2.d

Q3 文字の大きさは相対指定にする?

正解は  文字の大きさは、emや%などでスタイルシートで指定するのが正解



GOOD
文字サイズが相対指定されていると、文字が小さくて読めない場合でも、表示する文字の大きさブラウザの「文字のサイズ」メニューで変更できる。ウインドウズ版のIEや古いブラウザでは、pt、cm、mm、pxなどで文字の大きさを指定していると文字のサイズを変更できない。

「文字のサイズ」メニューで確認する。また、Accessibility Toolbarでスタイルシートを無効にして表示してみよう。

解説 文字のサイズやフォントはユーザーが変更できる必要がある。ユーザーが変更する場合には、ブラウザの「文字のサイズ」メニューを使う場合と、ユーザーが独自のスタイルシートを指定して変更する、あるいはスタイルシートを使わないといった選択肢がある。ブラウザの

「文字のサイズ」メニューに対応するためには、文字サイズは、em、%などを使って相対値で指定する必要がある。また後者の場合に対応するには、外部スタイルシートを用いるとよい。

チェック方法 ブラウザーの「文字のサ

プラスメリット 多くの高齢者はウェブ画面の文字が小さすぎて見づらく感じている。文字を拡大できるようにしておけば、この問題に対応可能だ。また、テーブルやセルの幅なども相対値にしておくと、ブラウザの表示サイズに応じた柔軟な対応が可能なコンテンツになる。

関連するJIS項目 5.6.a、5.6.b

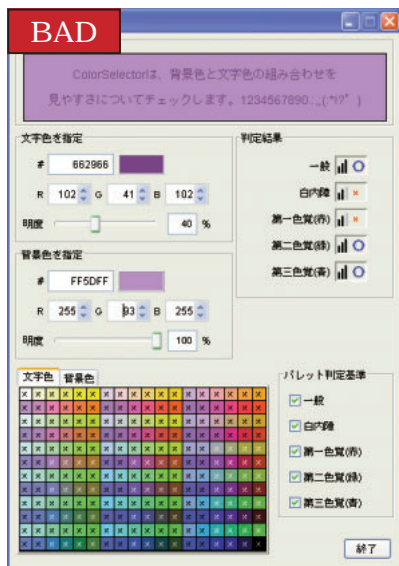
Q4

スタイルシートで指定すれば 色もフォントも自由に使える？

正解は



スタイルシートで指定する場合にも、 見やすいフォントや配色にする



富士通の色判定ソフトウェア
ColorSelectorを使って文字色と背景色の組み合わせを判定してみると、この例では第一色覚と白内障では見づらいことがわかる。

解説 スタイルシートでフォントや色を指定しておけば、ユーザーがスタイルシートを変更したり文字サイズを変更したりすることは、技術的には可能だ。だがブラウザの設定方法は容易ではなく、パソコンに不慣れな高齢者などに、そういう操作を求めるのには無理がある。したがって、スタイルシートでフォントや色を指定する場合にも、見やすさを意識したデザインが必要だ。

色彩は色覚障害や白内障といった色に関する障害に関連しているし、視力の弱い人にはコントラストが低いと見づらいことや、明朝系よりもゴシック系のフォントのほうが見やすいことがわかっているの、フォントの選択にも注意しよう。デザイン上どうしても指定した色を使いたい場合には、見やすい配色のスタイルシートを別途用意して切り替える仕組みを提供するのもよい方法だ。

ワンポイント 色とフォントについては、ブラウザのデフォルト指定に任せる場合は考えなくてもよい。最近、ウェブページの文字は小さくなってきている。高齢者だけでなく、40歳を超えた年齢層の人たちは夕方になると画面が見づらくなることがある。障害者だけでなく、幅広いユーザーに見やすくしておくことは、ウェブデザインの基本と言えるだろう。

チェック方法 色の組み合わせは、富士通のColorSelectorやColorDoctorなどを使ってチェックしよう。フォントサイズやスタイルはJISでは基準が示されていないが、少なくともメインとなるコンテンツの文字は、ブラウザの標準フォントより小さいサイズを避け、小さいフォントを使うときは、ゴシックを選択しよう。

関連するJIS項目 5.6.b、5.6.c

Q5

アクセシビリティに配慮しても 見た目のデザインは犠牲にならない？

正解は



見た目のデザインとアクセシビリティの 両立は、スタイルシートを使えば可能



アクセシビリティ対応でもここまでデザインできる「A-COMPASS」のサンプルから

解説 見た目のデザインとアクセシビリティは両立可能だ。A-COMPASSにはJISに対応しかつ見た目のデザインを犠牲にしないデザインサンプルが多数収められている。HTML記述もきれいだし、スタイルシートを利用した最新のデザイ

ン手法で作られたコンテンツだ。JISを最初からクリアできるようにデザインすれば、アクセシビリティの高いページは見栄えの悪いものにはならない。

ワンポイント JISが明快に述べているように、現場でHTMLを書く人だけがアクセシビリティを学んでもダメ。管理者、デザイナーもアクセシビリティを学び、設計の初期から保守の段階まで一般的にとらえておくことよ。アクセシビリティがコスト高になる最大の理由は、デザイナーや管理者の理解不足が生む無駄な時間ではないだろうか。

関連するJIS項目 6.1

アクセシビリティ対応 デザインサンプル集+

A-COMPASSは、アクセシブルかつCoolなウェブデザインのサンプル集CD-ROMとわかりやすいテキストをセットにした製品だ。自治体や学校など公共分野のサンプルが収められており、それらをユーザーが評価した結果も提供している。これから公共分野のウェブデザインを手がける人には、アクセシビリティに関




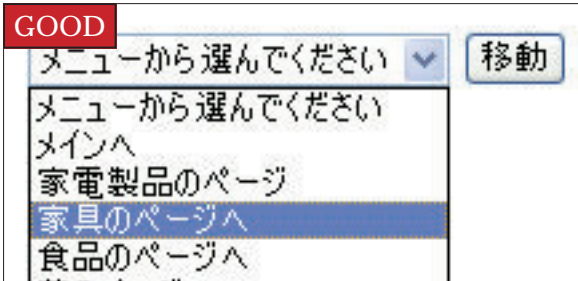
するノウハウが手に入るだけでなく、スタイルシートの使い方も役に立つサンプルが豊富だ。

価格：34,650円ー
アライド・プレインズ株式会社
URL <http://www.aao.ne.jp/ac/>

Q6 JavaScriptはうまく使えないことがある?



正解は  基本的に問題ないが、スクリーンリーダーやキーボード操作で問題が生じる場合もある



JavaScriptのonchange イベントハンドラーでページを移動するアクションが発生するようにプログラムしていると、マウス操作では問題ないが、キーボードでドロップダウンリストを選んでいる途中でイベントハンドラーが反応してページを移動してしまい使えない。この例のように「移動」ボタンを押すとページを移動するように設計しよう。

ワンポイント ウェブの機能を全面的にJavaScriptで記述すると、PDAなどではうまく使えないこともある。処理はできるだけサーバー側で行い、JavaScriptが使えない環境でも代替りの手段を使えるようにしておいたほうがよい。

解説 JavaScriptはユーザーの使い勝手を改善したり、フォームの入力項目を送信する前にチェックしたりするといった便利な機能を提供できるので、使うことは問題ない。だが、マウスの操作に依存したスクリプトでは、キーボードだけで操作できなかったり、スクリーンリーダーで


うまく読み上げられなかったりするなどの問題が発生する場合もあるので、注意が必要だ。ポイントとしては、マウスに依存したイベントハンドラーを用いない、フレームの別ウィンドウの内容を書き換える場合には、そのことがわかるようにしておく、などの配慮が求められる。

チェック方法 JavaScriptで記述した機能をキーボードだけで操作してみて、問題がなく操作できることを確認する。また、Accessibility Toolbarなどを使ってJavaScriptの機能をオフにしてページが利用できることを確認する。

関連するJIS項目 5.3.a, 5.3.e, 5.4.e

Q7 フォームは基本機能なので特に配慮するべきことはない?



正解は  フォームは使いづらいものの1つ。ラベル付けなどで入力すべき項目がはっきりわかるようにしておく

```
GOOD
<form action="/cgi-bin/post.cgi" method="post">
  <label for="name">氏名</label>(名前を漢字で入力してください)
  <input type="text" name="name" id="name" /><br />
  <label for="user">ユーザー名</label>(英数字で3文字から8文字です)
  <input type="text" name="userid" id="user" /><br />
  <hr />会員種別<br />
  <input type="radio" name="class" value="normal" id="normal" />
  <label for="normal">一般会員</label><br />
  <input type="radio" name="class" value="gold" id="gold" />
  <label for="gold">ゴールド会員</label>
  <hr />
  <input type="submit" name="submit" value="送信" />
</form>
```



フォームはGOODの例のように、各要素にID値を設定して、そのID値に対するlabel要素に解説のテキストを配置するのが望ましい。

解説 フォームは障害者だけでなく、ウェブに不慣れな一般のユーザーにもハードルの高いものである。したがって、一般のユーザーのために見た目のデザインや表記を工夫するとともに、スクリーンリーダーを使った場合にも入力すべき項目をわかりやすくしておく必要がある。フォームでは入力項目を示すテキストにラベルをつけ、インプットボックスなどと関連付けておく。さらに、入力サンプルを示し

ておくといよい。たとえば電話番号を入力するときに、ハイフン(-)を入れるべきかどうかなどわかりやすい説明をつけるのだ。また、選択項目の数が多い場合には、fieldset要素やlegend要素を使ってグループ化しておくとうわかりやすくなる。

ワンポイント ラジオボタンなどで、フォームのテキストにラベルをつけておくと、テキスト部分をクリックしてもその項目が

選択できるようになり、ウィンドウズの一般のダイアログに似た操作感を提供できるので、一般のユーザーにも便利だ。

チェック方法 Accessibility Toolbarでラベルを確認する。また、フォームの使い勝手を設計者以外の人に評価させるといった方法が有効だ。

関連するJIS項目 5.3.b

Q8

Flashは使ってはいけない？



正解は



アクセシビリティに配慮して作れば、障害者にも使いやすいFlashができる

解説 スクリーンリーダーで使えないと言われていたFlashだが、Flash Player 6以降のウィンドウズ版では、利用できる環境が整ってきた。マクロメディアはFlashのアクセシビリティを向上させるための技術を開発しており、最新版のスクリーンリーダーとFlash 6/7の組み合わせで利用できる(詳細はマクロメディアのサイト [URL](http://www.macromedia.com/jp/macromedia/accessibility/) を参照)。もっとも、すべてのFlashコンテンツをアクセシビリティ対応にするのは困難なので、必要に応じて代替のHTMLを用意しておくベストだ。

URL <http://www.macromedia.com/jp/macromedia/accessibility/>

ワンポイント Flashは確かに視覚障害者には使いづらいこともあるが、うまく作るとユーザーの使い勝手を大きく改善できる。アニメーションや画像をふんだんに用いたリッチなコンテンツは、文字ばかりのコンテンツよりもわかりやすくなる可能性を秘めており、アクセシビリティのために使用を制限するべきではない。

チェック方法 スクリーンリーダーで実際にチェックしてみるとともに、キーボードだけで操作することも確認するとよい。

関連するJIS項目 5.1.b

マクロメディアが提唱するアクセシブルなFlashの作り方

- ・ビジュアルな要素にはテキスト情報を割り当てる
- ・コンテンツの読み上げ順序を指定する
- ・音声コンテンツにはキャプションを指定する
- ・ループする要素をアクセス不能にする
- ・ユーザーが動作を制御できるようにする
- ・コントロールはすべてキーボードでアクセスできるようにする
- ・複雑なFlashムービーは、構造をわかりやすく示す
- ・コントロールの状態を提示する
- ・色使いに配慮する
- ・アクセシビリティを検証する

Q9

PDFは視覚障害者には使えない？



正解は



Acrobat 6.0を使ってタグ付きPDFを作れば、スクリーンリーダーでの読み上げが可能になる。

解説 Acrobat 6.0には、マイクロソフトオフィス2000/XPで作成したファイルをタグ付きで生成する機能があり、それを使うとスクリーンリーダーでも利用可能なPDFファイルが作成できる。そのためには、たとえばワードでは、画像ファイルに代替文字を入力し、見出しを付けるなど

の構造化を行っておく。すると、Adobe PDF Makerがそれらの情報を使ってアクセシブルなPDFを生成してくれるのだ。

チェック方法 Adobe Acrobat 6.0 Professionalでは、アクセシビリティをチェックする機能が提供されている。もち

ろん、文書の構造やコンテンツの中身によっては、読み上げられても実際には理解しづらいケースがあるので、スクリーンリーダーを使って読み上げをチェックしておくほうがよい。

関連するJIS項目 5.1.b

Q10

ブログはアクセシビリティ的には有利である？



正解は



Movable Typeなどは、きれいに構造化されたアクセシブルなコンテンツを生成できる

解説 Movable Typeなどのブログツールは、XHTMLに対応し、スタイルシートを活用したページデザインをとるものが多い。したがって、ウェブページの構造と表示スタイルの分離、構造を示すといったアクセシビリティからくるいくつかのポイントをクリアできる。あとは、画像を使うときのaltの記述や、スタイルシートのテンプレートを読みやすい配色や文

字サイズにするといった若干の変更を加えるだけで、アクセシビリティの高いページを簡単に作成することが可能だ。

ワンポイント ブログで一般的なRSSフィードは、たくさんあるウェブの中から必要な情報を見つけ出すために有効な手段であり、情報の検索がしづらい視覚障害者に便利なツールだ。残念ながら、

RSSリーダーの多くはスクリーンリーダーに対応できていないが、RSSリーダーを使ってウェブにアクセスするスタイルは、今後のトレンドになっていくものと思われる。もちろん、これは障害者だけでなく、多くの人が情報を探し出すのに役立つ仕組みだ。

関連するJIS項目 6.1



JIS制定で動き出した総務省 国も地方公共団体も、電子政府構築も JIS X8341-3を尊重した情報提供に

JIS策定後の政府のウェブアクセシビリティへの取り組みを、総務省でアクセシビリティを担当する総務省情報通信政策局情報通信利用促進課課長補佐の有馬伸明氏に聞いた。

JIS制定をうけて、政府ではどのように取り組んでいますか。

有馬氏：7月29日に各府省情報化統括責任者（CIO）連絡会議幹事会において「行政情報の電子的提供業務及び電子申請等受付業務の業務・システム見直し方針」[URL](#)が決定されました。本方針では、各府省のホームページが今回策

定されたJIS規格（JIS X8341-3）に沿ったものとするように必要な修正・作成を行うことを定めています。また、今後、地方公共団体などの公共サービスにおけるアクセシビリティの確保に向けて、ホームページなどについての実態調査を含めたアクセシビリティチェック項目の洗い出しと評価方法の検討を行っていくこととしています。

JIS法では、国や地方公共団体が調達などために何らかの基準を定める際にはJIS規格を尊重することと規定していますが、今回、電子政府構築の枠組みでもウェブアクセシビリティに

関するJIS規格の位置づけが明示されたことで、より一層のウェブアクセシビリティの確保・向上が進むものと考えています。

[URL](http://www.e-gov.go.jp/doc/scheme.html) <http://www.e-gov.go.jp/doc/scheme.html>

政府の情報公開などでは多くのPDFファイルが用いられていますが、これらについてはいかがですか？

有馬氏：PDFを含め、世の中にはさまざまなコンテンツがありますが、すでにJIS規格において、ウェブコンテンツはアクセシブルなオブジェクトであることが望ましい、そうでない場合は代替情報を提供することが望ましい、とされていますので、各府省ともJIS規格に沿った必要な措置を講じていくことになるものと考えています。



企業サイトのリニューアルが進む可能性も 公共分野だけでなく一般企業も動き始めて クリエイターの取り組みも始まった

7月6日に催されたデジタルハリウッド・オープンカレッジで、「ウェブコンテンツのバリアフリー化：JIS規格が求める対応」の講師を務めた、アライド・ブレインズ代表取締役社長の内田斉氏に業界の動向をうかがった。

ウェブクリエイターさんは、JISをどう受け止めているのでしょうか。

内田氏：JISが出るまでは自治体などの公共分野で大きな反応が出てくると予想していたのですが、フタを開けてみると民間の企業の反応が非常に高い。JISの影響力が予想以上に大きいことに驚いています。セミナーにもクリエイターさんだけでなく、企業のサイト管理者や担当者の方がかなり参加されていますね。

クリエイター企業はこれからどう対処していくべきでしょうか？

内田氏：JISへの対応が公共分野から進むことは間違いないでしょう。ただ、自治体などではアクセシビリティについて発注書で明確に示されない場合もあるので、関連企業は今後JIS対応というかたちで進めていくことになるでしょう。それと、米国で508条を契機に、日本の大手企業サイトのリニューアルがかなり進んだということがありました。JISでも、企業のサイトのリニューアルが進むかもしれません。クリエイターは早めにJISへの対応をすまはう方がいいでしょう。

ウェブアクセシビリティ関連情報

JIS規格・総合サイト

日本規格協会（オンラインでJISを購入可能）[URL](http://www.jsa.or.jp/) <http://www.jsa.or.jp/>
アクセシブルなウェブをめざす提供者と利用者のための実用サイト「A.A.O」
[URL](http://www.aao.ne.jp/) <http://www.aao.ne.jp/>
情報バリアフリーのための情報提供サイト（NICT：情報通信研究機構）
[URL](http://www2.nict.go.jp/its/v862/105/index.htm) <http://www2.nict.go.jp/its/v862/105/index.htm>
こころWeb（支援技術に関する総合サイト）[URL](http://www.kokoroweb.org/) <http://www.kokoroweb.org/>

各社のアクセシビリティ対応

Acrobat accessibility [URL](http://www.adobe.com/jp/products/acrobat/solutionsacc.html) <http://www.adobe.com/jp/products/acrobat/solutionsacc.html>
Macromedia アクセシビリティ
[URL](http://www.macromedia.com/jp/macromedia/accessibility/) <http://www.macromedia.com/jp/macromedia/accessibility/>

高齢者・障害者のための支援技術

PC-Talker（スクリーンリーダー）
[URL](http://www.pctalker.net/) <http://www.pctalker.net/>
XP Reader（スクリーンリーダー）
[URL](http://www.ssct.co.jp/barrierfree/95reader/) <http://www.ssct.co.jp/barrierfree/95reader/>
JAWS for Windows（IBM Version ホームページリーダー Ver 3.01（スクリーンリーダー））
[URL](http://www-6.ibm.com/jp/accessibility/) <http://www-6.ibm.com/jp/accessibility/>
オペレートナビEX（肢体不自由者向け）
[URL](http://121ware.com/software/openavi/) <http://121ware.com/software/openavi/>
画面拡大ソフトウェア（弱視者向け） [URL](http://121ware.com/software/zoomtext/) <http://121ware.com/software/zoomtext/>
らくらくウェブ散策（初心者、高齢者向け）
[URL](http://www-6.ibm.com/jp/accessibility/soft/rakuraku.html) <http://www-6.ibm.com/jp/accessibility/soft/rakuraku.html>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp